

知ろうAMR、考えようあなたのクスリ 第6弾
インフォグラフィックで知る薬剤耐性(AMR)Vol.6
「抗菌薬の正しい使い方」
2月19日(月)より公開

<http://amr.ncgm.go.jp/infographics/>

国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター(厚生労働省委託事業)は、国際的に脅威となっている薬剤耐性(AMR)対策の普及啓発活動の一環として、国民の皆様によりわかりやすく理解を深めていただくために、インフォグラフィックによる「知ろうAMR、考えようあなたのクスリ」をシリーズ化して公開しています。

その第6弾として、“抗菌薬の正しい使い方”を、2018年2月19日(月)より薬剤耐性AMR情報サイト<http://amr.ncgm.go.jp/>で公開いたします。

インフォグラフィックで知る！薬剤耐性 (AMR) vol.06

2018年2月作成

知ろう AMR、考えようあなたのクスリ
抗菌薬の正しい使い方

Antimicrobial Resistance: AMR

薬剤耐性(AMR)とは、病原体が変化して抗菌薬・抗生物質が効かなくなる問題です。このまま対策を行わないと、2050年には1,000万人(3秒に1人※)の死亡が想定され、現在のがんによる死亡者数を上回ることが指摘されています。

※英国薬剤耐性に関するレビュー委員会(オニール委員会)第一次報告(2014年12月)

今回は、「抗菌薬の正しい使い方」と題して「抗菌薬(抗生物質)とは何か」や「薬の正しい使い方」など、わかりやすくインフォグラフィックにまとめました。

<http://amr.ncgm.go.jp/infographics/>

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

抗菌薬はウイルスには効かない

そもそも抗菌薬（抗生物質）とは、「細菌」にしか効かない薬です。その為、「風邪」「インフルエンザ」などウイルスが原因となる病気には効きません。不必要な時に抗菌薬を服用することは、様々な副作用を引き起こしたり、薬剤耐性のリスクの増大につながります。抗菌薬を服用する際は、医師の診察を受け指示に従って正しく服用することが大切です。

抗菌薬（抗生物質）とは？

抗菌薬は「細菌」にしか効かない！

抗菌薬は細菌が原因となる病気の薬であり、ウイルスが原因となる風邪、インフルエンザには効きません。



ウイルス

大きさ
0.00001mm



抗菌薬



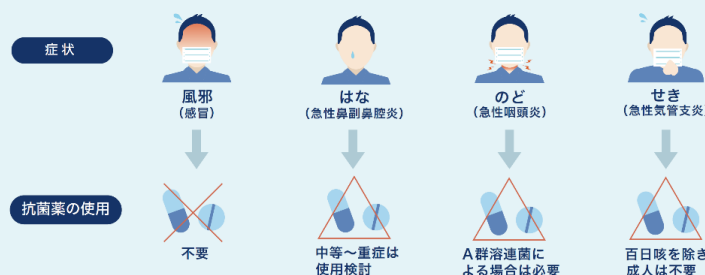
細菌

大きさ
0.001mm

ウイルスによる病気
風邪（感冒）、インフルエンザ、
風疹など

細菌による病気
肺炎、中耳炎、膀胱炎など

症状によって必要な対応は異なります。
診察を受けた医師の指示にしたがってください。



厚生労働省作成「抗微生物薬適正使用の手引き 第一版」による
対象：基礎疾患のない学童期以降の小児と成人

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

抗菌薬の正しい理解と薬の使い方5箇条

抗菌薬を正しく理解しましょう。



抗菌薬の効果

ウイルスが原因の病気には効きません。



副作用

下痢・嘔吐・発疹などの副作用をおこすこともあります。



薬剤耐性へのリスク

必要のない抗菌薬の服用は薬剤耐性菌の増加につながります。

薬の正しい使い方

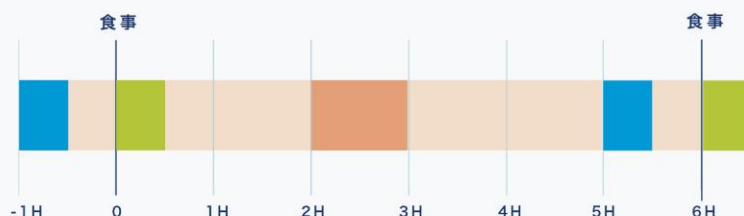
1. 医師・薬剤師の説明を良く聞きましょう

わからないことは質問しましょう。



2. 飲むタイミングを守る

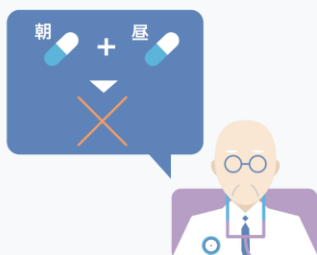
用法の指示のうち、「食前」「食後」「食間」とは以下のタイミングを言います。



- 「食前」：食事の1時間～30分前（胃の中に食べ物が入っていないとき）
- 「食後」：30分以内（胃の中に食べ物が入っているとき）
- 「食間」：食事の2時間後が目安（食事と食事の間）※食事中の服用ではない

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

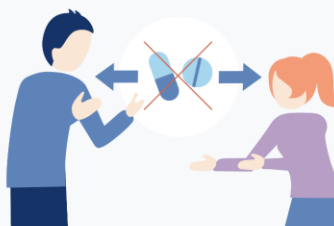


3.薬を飲み忘れた時

気づいた時にすぐに飲みましょう。
次の服用時間が迫っている場合は1回分を抜いて、その次から処方通りに飲みます。
2回分を一度に服用してはいけません。
詳しくは医師や薬剤師に確認してください。

4.処方された薬はあげない、もらわない

症状や体質・年齢などを考慮して処方されているため、他の人にあげたり、もらった薬を服用することはやめましょう。



5.薬の飲み合わせに注意

薬の飲み合わせによっては十分な効果が得られなかったり、体に悪影響を及ぼしたりすることがあります。
食品やサプリメントにも、薬との飲み合わせが悪いことがあります。
医師や薬剤師に確認しましょう。

「かしこく治して、明日につなぐ」

～ 抗 菌 薬 を 上 手 に 使 っ て A M R 対 策 ～



薬の正しい飲み方「1.医師・薬剤師の説明をよく聞く」「2.飲むタイミングを守る」「3.飲み忘れた時の対処」「4.処方された薬はあげない・もらわない」「5.薬の飲み合わせに注意」をしっかり守ることが、薬剤耐性予防に繋がります。

抗菌薬を正しく理解し服用して下さい。

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp